

## ■活動レポート

## ■館蔵資料紹介／体験学習室

## — 試着コーナー —

鈴木まほろ (学芸調査員)

体験学習室は、資料に実際に手を触れて理解を深めることができる場所として、多くの利用者に親しまれています。中心となっているのは民俗資料で、紙風船やだるま落としなど昔のおもちゃで遊べるコーナー、高機や石臼を使って昔の仕事を試せるコーナーなどがあります。中でも人気が高いのは、昔の衣装が試着できるコーナー。ここでは、「マタギ」「大名火消し」「町火消し」「掬石姉っこ」の装束、そして甲冑を身につけてみるすることができます。子どもたちだけでなく、外国からのお客様を含めて大人たちも、昔の人に空身する楽しさを味わっています。

このコーナーの一番人気はなんと言っ

ても甲冑です。大人用・子供用の2つのサイズがあり、鍬形付き兜・鎧・小具足・櫓がそれぞれ揃っています。子供サイズの鎧の紋は向鶴紋です。これらは体験用に制作したレプリカで、利用頻度が高くても壊れないよう、紐などを特に強化してあります。体験学習室を訪れば、いつでも着ることができますが、特に5月初旬の日曜午後には「みんなでためそう！体験教室」の一環として「端午の節句に鎧を着よう」というプログラムも実施しています。

ところで、これまで試着コーナーにある女性の装束は掬石姉っこのみでしたので、「女の子が着られるものがもっと欲しい」



という声が度々聞かれました。そこで、今年度は女の子向けの衣装を増やす準備を進めています。当館の収蔵品に、明治時代に鹿鳴館で開かれた夜会で県令婦人が着たと伝えられるイブニングドレスが2点あり(現在非公開)、その複製品を制作して体験学習室に設置する予定です。お姫様の気分になれる素敵なドレスなので、女の子は楽しみに待っててね！

## ■フォトスケッチ

## 第43回地質観察会

「二戸市白鳥川の貝化石～二戸が垂熱帯の海だった頃～」

大石雅之 (上席専門学芸員)

6月30日(日)、二戸市白鳥川で地質観察会が開催されました。講師に兵庫県立人と自然の博物館研究員の松原尚志さんをお迎えし、地層や化石を観察した40名の参加者は、新第三紀中新世の前期～中期(今から約1600万年ほど前)のこのあたりの様子に思いを馳せていました。

観察地点の地層は、この付近の地名をとって、「門ノ沢層」とよばれています。門ノ沢層からはたくさんの貝類化石が産出します。これらの貝類化石は「門ノ沢動物群」とよばれ、日本のこの時代の代表的な化石群集となっています。門ノ沢動物群は垂熱帯に棲む貝類群集からなっているので、二

戸地域を含む当時の日本列島の大部分は暖かい気候であったことがわかっています。

講師の松原さんは10年以上もこの地域の地質を調べてきているので、地元の誰より

もこのあたりの地層や化石のことを知っています。参加者にとっては、身近な自然の意義をあらためて見直す機会とすることができました。



門ノ沢層の礫層砂岩部層の模式地(地層の名前の元になった場所)で松原さんの説明をきく参加者